

# 嵐山町人口ビジョン及び嵐山町総合戦略(案)におけるパブリックコメントについて

○実施時期：平成27年 9月18日(金)～10月2日(金)

○対象：(1) 町内に在住・在勤・在学の方  
(2) 町内に事務所又は事業所を有する方

○閲覧場所：町公式ホームページ・嵐山町役場地域支援課、ふれあい交流センター、図書館

## ■結果

意見提出者	1名
意見項目	10項目

## ■意見一覧

項目	意見(原文のまま)	パブリックコメントに対する回答	区分
第2部 嵐山町総合戦略 第3章 2. 人の流れをつくる (2) 嵐山町への定住人口の増加を図る	<p>①親子近接居住奨励金 子育て世代の転入者の増加推進については、一定の補助があります。</p> <p>が、現在真っ最中の高齢化社会・介護が必要になるとき、子が近接して住んでいる場合、相互扶助の大きな力となります。相互扶助ができるように、親子が近接する場合、住宅建設への補助を提示することで、転出人口を抑えることができます。</p> <p>例えば、嵐山町に親がいて、子が滑川町に新住居を構え用途考える例が見受けられますが、介護保険の被保険者に相当する親が居る場合、町内住所においても、親子近接奨励金といった形で転入奨励金と同等のものを設置すべきです。</p> <p>3の子育て世代への経済的支援の充実の子育て高齢者応援リフォーム補助金とも異なりますが、日本の場合、介護保険では必要量の3分の1しか賄うことができないので、必要な施策です。</p>	<p>・埼玉県が実施するなら可能かと思われませんが、近接他自治体の転入に対する奨励金は、比企地域の中の嵐山町の現状や財政状況を鑑みますと、町内居住に対する奨励に留めることとします。</p>	<p>・財政的に実施できないもの</p> <p>・今後の事業を行なっていく上で留意するもの</p>
第2部 嵐山町総合戦略 第3章 2. 人の流れをつくる (3) 嵐山町への来客数の増加を図る	<p>②嵐山町への来客数の増加をはかる 嵐山町の特徴として、NWE C・歴史の里資料館の存在があります。この活用がすっぱり抜けています。観光施設だけではないことを忘れないで、活用してください。</p> <p>同時に、嵐山町は障害者施設の多い町です。コーディネーターが必要ですが、NWE Cの宿泊施設・研修施設を活用して、里山文化の伝承や、障害者アート展など、広く呼びかける・・・第6次産業を考えると、単に農業だけでなく、里山文化も含めた文化芸術の視点がかけているように思えます。コーディネーターに適した人材は嵐山町に在住しています。このような人材発掘も含めて来客数増を考えたほうが良いと思います</p>	<p>・総合戦略は、あくまでも「まち・ひと・しごと」に関する計画となっています。よって、これに記述のないものは全て行わないというものではなく、県や町の総合計画において位置づけているものについては、引き続き行っていくものです。国立女性教育会館や埼玉県立嵐山史跡の博物館については、引き続き本来の活用を図っておりますが、更に「観光資源」としても着眼し、「まち・ひと・しごと」に入れていくものです。ただし、埼玉県立嵐山史跡の博物館の記述がないため、加筆します。</p> <p>・障害者施策については、平成27年3月に策定した「第4期嵐山町障害福祉計画」で行ってまいります。本計画においては、法により国に勘案することになっており、あくまでも「まち・ひと・しごと」に関する計</p>	<p>・文章の修正、追加等、案に反映するもの</p> <p>・既に記載済のものや実際に反映済のもの</p>

項目	意見（原文のまま）	パブリックコメントに対する回答	区分
		<p>画となっています。ご理解をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嵐山町版「地域おこし協力隊」におきましては、P61にあるとおり、「農業・観光・商業・工業などの地域資源」、「文化・スポーツなどのあらゆる地域資源」をつなげ、活性化していくとしています。里地里山の維持管理については、P85に記載させていただいております。人材については、外部・内部含めて募集していく予定です。</li> </ul>	
<p>第2部 嵐山町総合戦略 第3章 3. 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる (1) 結婚の機会拡大と妊娠・出産・子どもの健康の支援</p>	<p>①結婚する機会の支援は現在では、男女の会える機会がないので必要なことである。嵐山町で婚活支援はひとつのきっかけとなる。が、嵐山町の場合、高校がなく、大学・就職で転出していく場合が多い。高校までは嵐山町在住の人も多いので、10代後半の人、20代前半の人が集まれる場を設置して、出会う場を増やす必要がある。</p> <p>まちづくりに関して、親世代、祖父母世代だけではなく、若い人が参加し、企画できる機会の提供と経費の支援を行って、婚活ではない若者の場づくりをまちが行うことも加えて欲しい。町行事の全てに関して、10代・20代が参加できるスタイルを構築していただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P73にあるとおり、結婚する機会の支援を行ってまいります。</li> <li>・10代後半、20代前半の集まれる場につきましては、広域的な出会い支援を行うなど行っていくことを検討しています。また、（仮称）嵐山活性化チームの事業においても交流が生まれるよう検討していきます。</li> <li>・町行事におきましては、成人式など既に可能なものから企画段階より参加してもらっております。しかしながら青少年相談員でさえ休止となっていることもあり、難しい面もあることも事実です。若い世代の行事への参画は、本計画ではなく、別計画において位置づけるものと捉えておりますが、常に参加を促すよう検討してまいります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の事業を行なっていく上で留意するもの</li> </ul>
<p>第2部 嵐山町総合戦略 第3章 3. 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる (1) 結婚の機会拡大と妊娠・出産・子どもの健康の支援</p>	<p>②法定外予防接種事業の受診延人数を評価指標にしているが、果たして安全性と予防接種の有効性について議論がある。とくに中学3年生のインフルエンザ接種は効果なしという報告が慶応大からでている。接種に補助するか否かは議論があり、政党によっては積極的に推進しているが、必要性を感じない親に対して積極的勧奨を行う結果になりがちであり、しかし、副反応に対しての補償は成立していない不備がある。</p> <p>受診延人数を妊娠・出産・子どもの健康に対する総合的な支援の評価指標にすべきではない。評価の対象から外すべきである。健康な子どものかずを評価の対象にすべきである。むしろ、アトピーや喘息などアレルギー疾患の子どものかずを把握し、その数を減少させるほうが総合的支援として有効である。</p> <p>また、出産に関しては、検診・相談事業の回数を一定数把握し、比率的を指標として評価対象にすべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アトピーや喘息などのアレルギー疾患数は残念ながら把握できておらず、指標にすることができません。検診・相談事業の回数把握については、「乳幼児健康診査受診率」として評価対象としております。法定外予防接種については、町の特徴的な施策であるため、KPIにおいても掲載させていただきました。</li> <li>・インフルエンザ接種については、医師から本人の承諾等により接種を行っており、あくまでも本人の同意による任意のものと考えております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の事業を行なっていく上で留意するもの</li> </ul>
<p>第2部 嵐山町総合戦略 第3章 3. 安心して結婚・出産・子育てができる</p>	<p>①本年度、0歳児の待機児童が増えたと聞いています。0歳児保育の期間は、おかあさんが働くか、赤ちゃん育児支援金として月5万円程度の支給をしてはいいでしょうか。年間130人の出産をめざすとして、概算で7800万円になります。ひとりの0歳児に対して保育にかかる経費は1ヶ月20万円ほどと言われています。母親が1年間子育てのために休業し、その間に月5万円の手当があれば、その金額で、人に子供をあずけ、次の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町では、平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」に基づき子ども・子育て支援を行うこととしております。「子ども・子育て支援事業計画」は多くの関係者の方の協議により策定しております。さらに、町では給付からサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的に実施困難なもの</li> </ul>

項目	意見（原文のまま）	パブリックコメントに対する回答	区分
社会をつくる (2) 未来志向の子育ての支援の充実	仕事のステップアップのための学習が可能になります。就業している女性はこどものことが気になると同時に、自分の仕事のセンスが落ちるのも不安です。本当は10万円程度の赤ちゃん育児支援金が相当ですが、当面5万円として提案します。嵐山町の保育料で0歳児の子どもへの保育料の町総負担額と比較してください。フィンランドでは、3歳児まで母親が子育てをするか、保育園に預けるか選択性になっていたと思います。多くの母親は3歳児まで自分での育児を選択すると聞いています。将来の人口減抑止には有効です。	の充実を目途としております。嵐山町の財政状況も大変厳しく、ご指摘の給付については、考えておりません。何卒ご理解をお願いします。	
第2部 嵐山町総合戦略 第3章 3. 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる (2) 未来志向の子育ての支援の充実	②子ども・子育て支援の充実のなかで、課題である嵐山町3才児保育についての記述がありません。多くの場合、若い両親は、幼児教育と学校教育の地域でのつながりを重視します。幼児教育でのママ友は、新たな仲間作りとして、一緒に子育てをします。若い母親にはママ友は欠かせません。そのため、3才児の子どもだけでなく、若いママにとっても重要です。民間保育に委託するとしても、何らかの記述が必要で、その後に結びつきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町では、平成27年3月に策定した「子ども・子育て支援事業計画」に基づき子ども・子育て支援を行うこととしております。なお、「子ども・子育て支援事業計画」は多くの関係者の方の協議により策定したものです。なお、その中で、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」を推進することとしています。</li> <li>・ 地域子育て支援拠点事業は乳幼児及び保護者が相互交流を行う場として位置づけています。</li> <li>・ アンケートの自由意見においても子どもを遊ばせる場の要望があったことから、安心して屋外で遊べる場の整備を加筆します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の事業を行なっていく上で留意するもの</li> <li>・ 既に記載済のものや実際に反映済のもの</li> <li>・ 文章の修正、追加等、案に反映するもの</li> </ul>
第2部 嵐山町総合戦略 第3章 3. 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる (3) 嵐山町の教育環境の充実	③P81の老朽化したプール施設の改修はH31年度までに実施となっていますが、学校統合の方向性については、公共施設管理計画の中の位置づけても考えるべきです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P88において、「学校施設を始めとした公共施設等総合管理計画個別計画の策定」をすることとしております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既に記載済のものや実際に反映済のもの</li> </ul>
第2部 嵐山町総合戦略 第3章 4. 住みよい環境をつくる (1) 武蔵嵐山駅周辺施設の充実	①駅に近接して食料品等を購入できる場に必要性について 駅周辺のあり方については、嵐山町は「通勤通学の距離があること」が居住の不便さにあげられている。そのため、駅近辺については、都内からの帰宅者が買い物やクリーニングを活用しやすい場にしていく必要がある。一定程度の方が、食材の宅配等を利用している。が、それでも不足するものがあるという。菅谷地区では、自動車が活用できない高齢者の買い物難民が存在しているが、生鮮食品やお惣菜などが購入できる場を駅に近接して設置すると食の消費に関しての安心感がうまれる。多くの場合、電車利用で通勤通学しており、帰宅時に買い物ができない不便さは大きくその解消を施策に盛り込む必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前スーパーやコンビニエンスストアの撤退等駅前の活性化は長年の課題となっており、既に「基本的方向」において「中心市街地の活性化を図ります。」と記述しています。実際の事業については、町の財政を鑑みながら持続可能なものとして実施していく必要もあると考えており、今後更に検討していきます。なお、菅谷地区の高齢者の買い物難民対策と通勤通学している方の買い物対策など対象をよく調査しながら、今後検討し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既に記載済のものや実際に反映済のもの</li> <li>・ 今後の事業を行なっていく上で留意するもの</li> </ul>

項目	意見（原文のまま）	パブリックコメントに対する回答	区分
		ていきます。	
第2部 嵐山町総合戦略 第3章 4. 住みよい環境をつくる (2) 自然豊かな環境整備の推進	<p>②デマンド交通について</p> <p>交通弱者対策として、タクシー助成が75歳以上の運転免許証のない人、障害のある人を対象にして交付されている。近年、嵐山町においても豊かではない層の若い人も増えている。</p> <p>また、若い人は自動車を持たない人が増えている。そのため、嵐山町近辺での就業が難しくなる。公共施設の利用方法も含め、一般の人が利用できるデマンド交通の確立が必要であり、総合戦略には記しておくべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状はご指摘のとおり高齢者の方で運転免許証のない方等にタクシー券を交付しております。また、交通施策には実態調査が特に必要と考え、現在、町内で交通に対する利用実態調査を実施しており、その旨をP87に記載しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既に記載済のものや実際に反映済のもの</li> <li>・今後の事業を行なっていく上で留意するもの</li> </ul>
全体	<p>住民調査は丁寧にできていると思いました。さすが、年齢別の様々な意見が拾えていて参考になりました。価値観や家族形態がさまざまになっている現代では、さまざまな形に家族支援が不可欠です。また、貧困問題がここではとりあげられていません。国策では、これからますます福祉が切り捨てられていきます。福祉のまちづくりの転換しながら総合戦略を作っていく必要性を感じました。</p> <p>日本では家族政策がほとんど機能しておらず、同様に嵐山町もその傾向があります。所得の再配分後にさらに格差が進むのは日本だけなので、政策のつくり方は難しいと感じています。</p> <p>ご意見を読んでいても、世代別の支援の現状から抜け出せないように思えました。幼老一緒に使えるひとつの政策で二兎をおえる政策がつかれるといいと感じました。制服や体操服のデザインの変更はとてもおもしろいとおもいます。20年以上前もそのように考えたことがありました。同じ課題をずーっと持っているということに改めて気づきました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族施策や貧困問題については、国の施策が大きく関わってきていると考えております。</li> <li>・幼児・児童・生徒から高齢者の方まで中学校区を中心とした文化圏となり、交流するようP79に加筆します。</li> <li>・今後も、財政状況を鑑み、(仮称)嵐山活性化チームを含めて世代間交流を始めあらゆる資源をつなげていくこととしています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報、感想、質問等のもの</li> <li>・文章の修正、追加等、案に反映するもの</li> <li>・既に記載済のものや実際に反映済のもの</li> </ul>